

二部地区活性化だより

野上川の風

発行
二部地区活性化推進機構

編集
総務部会

事務局

〒689-4233
西伯郡伯耆町二部1562-1
二部公民館内
TEL・FAX 0859-62-7159



二部札所巡り

歩いて健康がくる

二本足で 人は歩く

でもその進化してきた足が

一番先きに 弱る

骨折 転倒は老人社会の常

その足腰を鍛えるため 歩く

散歩よし ウォーキングよし

毎日または 曜日を決めて

できれば友と一緒に歩く

週に三日 一日三十分

これが 高齢者の目標だ

あまり無理せず 継続して

大いに 歩け 歩け

「健康日本21」では一日の理想歩数を、七十歳以上の男性四、九〇〇歩、女性四、八〇〇歩という。

歩幅二〇厘なら約一軒、四〇厘で二軒となる。またNHK健康番組では病気の予防の一日歩数は、うつ病予防四、〇〇〇歩、動脈硬化予防、六、〇〇〇歩、骨粗しょう病予防八、〇〇〇歩と報じた。是非参考に。

平成十六年度

「鳥取県優秀経営」

農林水産業等」

知事賞を受賞!!

平成十六年十月二十八日に表題の表彰式典が、倉吉未来中心において開催され二部地区活性化推進機構が、「ぬくもりのある集落」部門で明るく魅力ある村づくりに努力したことについて表彰状と記念盾を受賞しましたことについて御報告いたします。

副会長

谷口包夫



第27回たたらまつりと 二部谷フォートコンテスト 入賞発表展

全面的協力のもとで今年も公民館のたたらまつりが盛大に開催されました。三日間の天候には少し不満も残しましたが、凡そ六〇〇名の参観者で賑わいました。地域住民の多数の出品作品展示とともにメイン会場の特別展示が目されたところです。

「ふるさとの年中行事展」

農村では四季の変化の中で、時どきの行事が慣例として永らく続けられてきた。これが年中行事である。神仏をあがめ豊作を祈りわざわいの除去を念ずるなど、伝統的民俗文化といえる。

今忘れ去られようとしているこれらの諸行事のうち、形あるものに再現できる二十項目に絞って展示された。



歳神かざり



たこさんと曼珠沙華

「二部谷の四季写真 コンテスト入選発表展」

活性化機構趣味部会の企画で今年度から始めた写真コンテスト、呼びかけに応じて一月二十日〆切り迄の出品は三十二点（七名）でした。二月十一日の審査会で最優秀賞一点、優秀賞二点、入選作六点を選びました。審査員には中田貝実（二部）、住田恒夫（境港）、宮本香子（溝口中教諭）の三かたにお願いしました。ふるさとを改めて見直す写真展としましたが、次年度も継続致します。



コンテスト

詳細は後日公報しますが、多くの住民各位のご応募を期待します。入選作は次の通り。

最優秀 たこさんと曼珠沙華

優秀 溪流 杉原千鶴子

優選 雪ほだ木 加藤 正純

入選 日の出 田村 春夫

ピカピカの一年生 加藤 正純

村境の守札 中田 寿国

虹と小学校 田邊美穂子

春の光 藤原伊三郎

秋祭の日 西村 克宏

(入選の順位は不同)

西村 克宏

西村 克宏

西村 克宏

県外視察研修

愛媛県の内子町、
双海町に学ぶ

ふたみ

昨年暮の十二月十一・十二日、一泊二日で恒例の先進地視察を実施した。総勢二十名うち女性四名であった。

松山市を南に下って大洲市にほど近い内子町、その北西隣り伊予灘に面した双海町、ここが今回の視察先きです。盛況の道の駅や山里での村おこし、そして特記すべきは、古い歴史を尊ぶ木蠟と白壁の町内子のまちおこし戦略であった。一方の双海町は、特徴の無い町に新しく歴史を創造しようと張り切る若松進一教育長が、先頭に立って「しずむ夕日が立ちどまる町双海町」を売りだしたところ。この視察の一部感想を杉原弘徳夫妻から次の通り投稿いただいた。

先進地視察を終えて

福岡 杉原弘徳

出発から四時間かかって内子町に到着、早速レストランで郷土料理に舌鼓、午後一時から視察を行う。

活動のきっかけ

石畳地域は内子町の市街地から、北へ約十二軒、農林業を基幹産業にした、人口四〇〇人の町内でも、過疎と高齢化が進んだ集落です。

昭和六十二年石畳地域に思いを寄せる者達十二名が集まり、「石畳を思いう会」を組織し地域づくりを始めました。

取り組みの概要

廃屋になった茅葺き民家を移築して交流施設、民宿及び展示施設として復元して活用しています。



水車のむらづくり

平成二年六月会員一人五万円を支出し、自ら労力を負担し補助や公共事業に頼らず水車一基を復元した。内子町も「石畳を思いう会」

の運動に呼応して、平成四年に水車小屋を一基建築し水車小屋周辺を「石畳清流園」として公園整備がされた。水車は計三基、落差を利用して上流からパイプで取水し車に流す方法、それから水車の主軸の先端に歯車をつけて石臼で製粉をする。公園内には屋根付き歩道橋があつて屋根は孟宗竹を二つ割りにし上下合わせて屋根が作つてあり、公園広場は一面に材木チップの絨毯でありました。桜、モミジも植栽してありました。

「石畳水車まつり」を十一月三日に開催、バザーや農産物の即売に町内外から一、五〇〇人の来訪者があり交流を深めています。

ホタルの棲める川づくり

平成八年よりホタルの生態の勉強を行い石畳地区を流れる麓川は五月から八月上旬にかけて数多くのホタルが観望できます。



石畳清流園

学習交流活動

「石畳を思いう会」では平成八年九月には会員の八名が自費でスイスに研修に行っています。

古い家並と木蠟と白壁の町

昭和五十七年国の「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受けた八日市護国地区、この地区は江戸後期から明治にかけて木蠟生産で栄えたところ。今でも当時の面影を残す商家、民家、土蔵が約六〇〇mに軒を連ねています。大村家は寛政年間、本芳我家は明治十七年、上芳我家は明治二十七年

建築の建物で国の重要文化財です。

最後に石畳地区を視察して感じたことは、町の八〇%が山林原野であり、山の中腹まで民家と耕地があるところで、高い山で標高八〇〇mほど、年に二、三回冠雪があるそうです。麓の耕地は石を垂直に積み上げた棚田になっていて、耕地は狭く大型機械は使えません。特に道路が狭くつづら折りの道路で対面通行はできません。前は川、後ろは急傾斜地で道路拡張は難しいようでした。

内子フレッシュパーク 「からり」を視察して

福岡 杉原良子

道の駅内子フレッシュパーク「からり」特産品直売所は三六〇名の出荷会員で直売所運営を行っています。特に出荷者の六割を女性が占め、平成十四年度売り上げが三億八千万円を超え、年間五〇万人以上の来場者があるといわれます。

「からり」について感じたことは品物の多さとお客さんの多さにびっくりしました。

値段も高くなり安くなり花壇苗も安い感じでないのが良かった。生産者が安売りをしなければいけないよ

視察を終えて地域活性化のための熱意をひしひしと感じた研修でありました。

二部地区の皆様が自分たちで何ができるか、老いも若きも一致団結して事業を思いついたら素晴らしい事業ができると思います。線香花火ではいけません永く続けることです。

人生山あり谷あり、花作りを始めて三十五年苦労してきましたが人生生きちようだけでまるもうけです。

うな売場はよくないと思いました。

レストラン「からり」で昼食、地元食材を生かした料理でした。

二日目の昼食は農家のお母さんの店「あぐり亭」で、一番驚いたことは「やぐら」の餅つきでした。餅は出来上がるのが待ちきれないように売っていました。

内子町全体が昔の物を大切にしろを今に伝え観光につながり、内子フレッシュパークのお客さんの多さにつながっていると思いました。

活動日誌メモ

(月日) (内容)

平成十六年

九、六 辛味大根試作(五品種)

一八 役員会(当面の事業)

一〇、四 会報第八号発行配布

一七 スポーツ部会

一八 福祉ボランティア

(寿城)

二八 県知事表彰式(倉吉)

三十 総務部会(県外視察)

一一、七 二部札所巡りウォーキング

(三十五名参加)

一五 一斉清掃打合せ

(粗大ゴミ)

二八 道路・河川一斉清掃

(二八一名参加)

一一、二 県外視察研修

(二〇名参加)

一二 愛媛県 内子町 双海町

二四 たたらまつり実行委員会

(以後 計三回開催)

平成十七年

二、四 趣味部会

(写真コンテストにつき)

一一 写真コンテスト審査会

一九 第21回たたらまつり

〃 特別展示

ふるさとの年中行事

〃 写真コンテスト入選発表展示

三、一〇 たたらまつり反省会

(参観者延五九五名)

三、二六 役員会(事業計画)

三、三一 会報第九号発行

あとがき

一月一日、新しい町「伯耆町」が誕生しました。

一月三〇日の投票日に新しい町長も選出され、本格的に「伯耆町」が動きだしました。四月には新しい町議会の構成も決まります。活力ある、住みよい町づくりに期待したいものです。

今年のたたらまつりには、岸本地区からも大勢の見学者がありました。

